

科目	ゼミナール I (R)	担当	横井 康博	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

本ゼミにおいては、『する』、『みる』スポーツの実践を行ってきた学生に対して、『ささえる』スポーツの中でもスポーツ指導者としての実践を試みる。またゼミの目標としては、スポーツ指導者としての基礎理論を学習し、他の学生を対象者に見立てての指導者体験によって、即戦力のスポーツ指導者として現場に送り込むことである。

また、卒業論文に関する意識づけを並行して行っていく。

【履修注意】

履修注意】

指導者としての姿勢や態度をしっかりと身につける。

基本的には、全出席。

【評価方法】

出席点90%、指導者実践担当分の評価10%で評価する。

【試験について】

指導者実践の評価とレポート作成を行う。

再試験対象者の条件： 行わない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

資料を随時配布。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	今後の進め方について
2	卒業論文作成への心構え	学術論文としての内容と決まりごとの理解
3	卒業論文テーマの模索	テーマ選定における関連資料収集方法
4	指導者としての心構え	指示、言葉遣い、姿勢・態度など基本的な理解
5	指導者としての実践 I	担当ペアの主要な狙いを明確にする
6	指導者としての実践 II	担当ペアの主要な狙いを明確にする
7	指導者としての実践 III	担当ペアの主要な狙いを明確にする
8	指導者としての実践 IV	前回の担当ペアの反省点を踏まえて行う
9	指導者としての実践 V	前回の担当ペアの反省点を踏まえて行う
10	指導者としての実践 VI	前回の担当ペアの反省点を踏まえて行う
11	指導者としての実践 VII	より細部にわたって行き届いた指導方法を目指しながら
12	指導者としての実践 VIII	指導案の精度を高め、それに準じて実践する
13	指導者としての実践 IX	より完成度の高い指導方法を考えながら行う
14	指導者としての実践 X	より完成度の高い指導方法を考えながら行う
15	卒業論文テーマ選定	ゼミ全体の卒論テーマに関するディスカッション
16	レポート提出	ゼミナール I の活動に関するレポート